
令和5年 壱 岐 市 議 会 定 例 会 3 月 会 議 会 議 録 (第5日)

議事日程 (第5号)

令和5年3月10日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

- 14番 市山 繁 議員
1番 森 俊介 議員

本日の会議に付した事件
(議事日程第5号に同じ)

出席議員 (15名)

- | | |
|------------|------------|
| 1番 森 俊介君 | 2番 樋口伊久磨君 |
| 3番 武原由里子君 | 4番 山口 欽秀君 |
| 5番 中原 正博君 | 6番 山川 忠久君 |
| 7番 植村 圭司君 | 8番 清水 修君 |
| 9番 赤木 貴尚君 | 10番 音嶋 正吾君 |
| 11番 小金丸益明君 | 13番 中田 恭一君 |
| 14番 市山 繁君 | 15番 土谷 勇二君 |
| 16番 豊坂 敏文君 | |

欠席議員 (なし)

欠 員 (1名)

事務局出席職員職氏名

- 事務局長 山川 正信君 事務局次長 平本 善広君
事務局係長 折田 浩章君
-

説明のため出席した者の職氏名

市長 白川 博一君 副市長 眞鍋 陽晃君

教育長	-----	久保田良和君	総務部長	-----	久間 博喜君
企画振興部長	-----	中上 良二君	市民部長	-----	西原 辰也君
保健環境部長	-----	崎川 敏春君	建設部長	-----	増田 誠君
農林水産部長	-----	谷口 実君	教育次長	-----	塚本 和広君
消防本部消防長	-----	山川 康君	総務課長	-----	平田 英貴君
財政課長	-----	原 裕治君	会計管理者	-----	篠崎 昭子君

午前10時00分開議

○議長（豊坂 敏文君） 皆さん、おはようございます。

会議に入る前に、あらかじめ御報告いたします。壱岐新聞社ほか1名の方から、報道取材のため撮影機材等の使用の申出があり、許可をいたしておりますので、御了承願います。

ただいまの出席議員は15名であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

ここで、白川市長より発言の申出がっておりますので、これを許します。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） おはようございます。3月7日に御報告をいたしました社会福祉法人北串会の認定こども園施設整備事業の撤退の申出について、3月8日、理事長中路秀彦氏ほか2名の理事がお見えになり、今回の撤退に至った経緯及び理由について御説明の上で、文書による撤退の意向を正式に受け取りました。

主な撤退理由としては、認定こども園の開設に向けて準備を進める中で、一部の市民や報道機関による偏った度重なる批判や反対運動、関係者への幾度とない誹謗中傷等を受けて、認定こども園建設の安全かつ継続的な工事と開設後の安定した保育事業運営の継続が困難であること及び誹謗中傷等の改善の兆しが見えない状況の中で、最も優先すべき児童の安全が確保できない状況では、本事業の撤退以外のすべはないとの判断に至ったとのことであります。

本事業につきましては、昨年6月会議で予算の議決を頂き、これまでも様々な議論がなされた中で、現地工事まであと一歩のところでの事業撤退は、本市といたしましても、保育環境のさらなる充実に大きく期待を寄せていただいただけに、非常に残念な思いでなりません。

また、市議会には、別途文書を提出させていただくとのことでございました。

今後は、国、県及び関係機関と連絡調整を図りながら、撤退に伴う事務手続を進めてまいります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

日程第1. 一般質問

○議長（豊坂 敏文君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いします。

それでは、質問順位に従い、14番、市山繁議員の登壇をお願いします。

〔市山 繁議員 一般質問席 登壇〕

○議員（14番 市山 繁君） 皆さん、おはようございます。昨年の2月14日未明、ロシアがウクライナへの侵攻以来、今日まで世界中が全てにおいて大きな打撃を受けて、早期の停戦を願っております。本日は、令和4年度の最後の一般質問で、朝一番の登壇であります。皆さんもお疲れさんでございましょうが、今日は半日でございますので、よろしく願いいたします。

それでは、14番、市山繁が通告に従いまして、一般質問を行います。

質問事項は、大きくは3点ですが、質問の要旨として何点か挙げておりますので、順次質問させていただきます。簡潔な御答弁をお願いいたします。

それでは、1項の壱岐市婚活事業についての質問に入る前に、少子化、人口減少の歯止め対策については、政府をはじめ離島県である長崎県知事、壱岐市においては白川市長を先頭に、私たち議会も島民全体が取り組んでいる重点課題であります。日本国では、少子化が加速し、将来の国の危機が報じられております。

白川市長も、議会初日の施政方針で申されたように、厚生労働省は、2月28日、2022年の国内の出生数速報値が、前年比5.1%減の79万9,228人と発表されておりますが、この80万人割れは、統計を取り始めた1899年以来で124年間で初めてであり、一つは、新型コロナウイルス感染症感染拡大による2020年から21年の婚姻件数が減少したことが影響したと思われませんが、国立社会保障・人口問題研究所の2019年の統計では、80万割れは想定より11年も早く少子化が進んでおると言われております。

壱岐市においても、令和3年度の出生数が141人であったのが、令和4年度の出生数は過去最少の107人であり、令和4年度の婚姻届数は75件であり、婚姻数の減少が原因であります。

隣国の中国では、1971年に、人口が増加していることから一人っ子政策としておりましたが、61年ぶりに人口が減少したことから、2015年に一人っ子政策を終了し、2021年に3子出産と将来の労働人口の確保としております。これを見ても、どこの国でも人口、人材確保が子供を出産することが国の発展にいかにか大切か明らかであります。

地球上の生物は山川草木、魚介類、鳥類から万物の影響、人類に至るまで自分の子供を残すために努力しております。その中で、人間は男女が正式に結婚し子どもを産み、子育てをし、人づくり、人材確保をし、産業の振興と国の繁栄の礎としての循環をしてまいりましたが、昭和30年が人口のピークで年々下降し、子どもの出生数が減少し、少子化となっております。

その原因の一つは、戦後、平和となり教育が高度化し、大学教育や高等教育や専門的な教育が学ぶようになり、教育費が増額し、親が負担増となり、優秀な子どもでも進学できない状況となり、出産を控えるのではないかとされており。これは、政府が教育の支援策に取り組むべき政策であります。一方では、結婚したくても本人や家庭の諸事情ややむなく晩婚になって、出会いを諦めたりする男性が多いように思われます。そのような未婚者のためと、結婚して子どもを育てていただくための壱岐市が取り組む婚活事業でありますので、次の5点についてお尋ねをいたします。

なお、5点とも関連がありますけれども、分かりやすく答弁を頂くために項目を挙げておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、（イ）の壱岐市の婚活事業の中止の理由と婚活事業の直近3年間の実績についてお尋ねをいたします。

この件は、現代の大きな課題である少子化、人口減少の歯止め対策には、壱岐市が率先して取り組んでいる婚活事業の中止について、壱岐市の事業の中止の話聞いて、正直私もびっくりしました。これは、コロナ禍のためイベントの中止や参加の募集もできなかったことは理解できますが、ほかに中止する理由があったのか、その理由と壱岐市が取り組んでいる婚活事業の中止を議会に報告はあっていないと思いますが、これはどんなのでしょうか。お尋ねをいたします。

壱岐市の婚活事業の中止に当たり、直近3年の事業の実績をお尋ねをいたします。

次に、（ロ）の今回、壱岐市の婚活事業を壱岐商工会女性部の活動について、壱岐市はこの事業を以前から女性部と協議されていたのでしょうか。壱岐市商工会女性部がサポート活動に取り組まれることは大賛成であり、女性部には、それぞれの立場で情報のキャッチが早く、この活動には期待しておりますが、壱岐市はどのような流れで壱岐市商工会女性部に移行されたのか、女性部からの申出があつてのことかの説明をしていただきたいと思ひます。

次に、（ハ）の壱岐市商工会女性部の婚活事業の内容と取組方法と今年度の実績見込みについて、壱岐市商工会女性部が婚活事業に活動していただくことはありがたく感謝しているところでございますが、女性のパワーで企画されていると思ひしておりますけれども、事業の内容と取組方法と壱岐市と変わった点があれば、説明を頂きたいし、令和4年度からの取組で事業の初年度ではありますけれども、今年度の実績見込みをお教え頂きたいと思ひます。

次に、（ニ）は、壱岐市は婚活事業を中止されていますが、壱岐市としての支援策と婚活事業は完全に中止されるのかどうか、再起の考えはあるかについてお尋ねをいたします。

壱岐市は、少子化、人口減少歯止めの対策として、未婚者、結婚に恵まれない方たちのサポート事業として、長年方策を練り、婚活イベントや個別訪問など企画をし、実施されてこられました。その人気事業を今回、壱岐市商工会女性部が婚活事業に取り組まれますが、壱岐市として

どのような支援をされるのか。補助金の窓口だけなのか、別に支援策を考えておられるのか、また婚活事業の中止はコロナ禍は少しは落ち着き、5類となっていますが、状況次第では再起の考えはあるのかどうか。

壱岐市商工会女性部が事業を開始したばかりなので、壱岐市は今後、婚活事業は完全中止されるのか、壱岐市商工会女性部と連携して婚活事業に取り組んでいくのか、お尋ねをいたしたいと思います。

次に、婚活事業に関連がありますので項目を挙げておりますが、結婚相談所の設置についてですが、この事業については、最近まで壱岐市の結婚相談員として2名の方が活動をされておりましたが、御本人様の御都合により退任されて、現在は皆無であります。この結婚相談員はどこでもというわけにはまいりません。市の婚活事業では、自分では登録し、相手を紹介していただき、カップルとなれば成婚とつながることもありますが、まず、その登録に行くことに抵抗がある人も多いようでございます。

活発な人とおとなしい人の控え目の違いはあるかと思いますが、結婚相談所がそのようなことを考慮すると、美容室のような若い女性から高齢者まで来店し、いろいろな話題の中で情報も早く、豊富で気軽に話せて相談もしやすいなど、美容室が適所と思っておりますが、そんな話もちまたであっておりましたので、私も提案をいたした次第でございまして、美容室の経営者に設置のお願いをしてはと思っております。当然、成婚となれば成婚報酬は支払われるわけでございますので、協力を願ってはどうかと思っておりますが、以下、質問をいたしましたので、お願いいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 市山繁議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。中上企画振興部長。

〔企画振興部長（中上 良二君） 登壇〕

○企画振興部長（中上 良二君） おはようございます。14番、市山議員の壱岐市の婚活事業につきましの御質問に答弁をさせていただきます。

まず、1点目の婚活事業の中止理由と直近3年間の実績についてでございますが、婚活イベントにつきましては、出会いの場を創出してほしいという地域の声に応えたもので、令和3年度まで継続して事業を実施しておりましたが、コロナ禍もあり、イベントの開催が厳しい状況が2年間続きましたので、令和4年度は一旦事業を休止しているところでございます。

婚活イベントの直近3年間の実績は、令和元年度は1泊2日のイベントを開催し、男性17名、女性14名、計31名の方々に御参加を頂き、11組のカップリングが成立したものの、その後、成婚まで至ったという御報告は頂いていないところでございます。

令和2年度につきましては、単日のイベントを複数回実施の計画を立てておりましたが、天気の都合、また新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、1回のみの実施となり、男性17名、

女性14名、計31名の方に御参加を頂きました。カップリングにつきましては、複数回実施するイベントの最終回に行く予定であったため、令和2年度については、カップリングまで至っておらず、成婚についてもゼロ組となっております。

令和3年度につきましては、長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、参加者の獲得に大変苦慮いたしましたが、1泊2日のイベントを2回開催し、男性21名、女性22名、計43名の方々に御参加を頂きました。参加者の希望によりマッチングは行わなかったため、カップリング及び成婚については、前年度同様ゼロ組となっております。

なお、この壱岐市の婚活事業の令和4年度は一旦休止をするということにつきましては、令和4年度の当初予算におきまして、令和4年度については商工会女性部の結婚相談会を重点的に行うというようなことで、御説明をさせていただいた折に御説明をさせていただいております。

次に、商工会女性部が主体となった結婚相談会の取組についてでございますが、婚活イベントが、ただいま申しました状況の中、令和3年末に壱岐市商工会女性部より、未婚化、晩婚化の抑制及び地域活性化に寄与する取組として、結婚個別無料相談会の実施について、御相談、御要望を頂きました。

この相談会は、これまでの壱岐市主体の婚活支援から、地域住民が地域の独身者のために支援を行う共同支援につながり、これまでの出会いが主となる婚活イベントと比較し、ピンポイントで個々の相談に応じることから、成婚率も高まるものと期待をし、令和4年度から県、市、商工会で連携を図り事業を進めてまいりました。

事業初年度となる今年度の相談会の実施につきましては、外部専門家、恋愛カウンセラーを招聘し、5月から2月まで毎月、相談会を実施し、男性21名、女性5名、計26名——延べでいきますと65名でございますが——の方々に御利用を頂き、そのうち6回のお見合いを実施したところでございます。

次に、今後の壱岐市としての支援についてでございますが、引き続き、壱岐市商工会女性部が実施する結婚個別無料相談会の事業を支援し、さらに既存事業の結婚新生活支援補助金や成婚奨励金、そして、長崎県婚活サポートセンターが運営を行っておりますマッチングサイト、お見合いシステムへの登録を推進してまいります。

なお、長崎県のお見合いシステムについて概要を御説明いたしますと、平成28年10月からシステムへの登録が開始をされており、本年2月末現在の登録者数は全体で2,015名、男女比はほぼ半々となっております。このうち、壱岐市の登録者数は13名で、全て男性でございます。

これまでのカップル成立数は、全体で1,931組、成婚実績は331組となっており、壱岐の方も2名がお見合いシステムをきっかけとして成婚をされております。このような実績もある

ことから、今後、システムへの登録をさらに推進をしてまいります。

また、令和5年度より、壱岐市ふれあい交流事業の拡充を行い、市内在住者で構成する団体、または市内事業者が参加者を募集し、実施するイベントなどの事業に対する補助を拡充することで、出会いの機会の創出や地域の活性化に寄与できるものと考えております。

なお、従来実施をしておりました市主催の婚活イベントにつきましては、現在、中止としておりますが、令和5年度からのふれあい交流事業の拡充は、出会いの機会の創出を図るものでございまして、従来の婚活イベントと同じ効果が期待できると考えております。積極的な制度活用を周知するとともに、引き続き、地域のニーズや時代背景に沿った形で婚活事業を展開できるように努めてまいります。

最後に、御提案を頂きました結婚相談所の設置についてでございますが、全国的に見ますと、結婚相談所が併設されている美容室や運営母体が異なる婚活事業者と美容室が連携し、新たなビジネスとしてお客様にサービスを提供されており、魅力的な事業であると考えております。

市民皆様や民間事業者様と連携を深めて、婚活から結婚、そして出産につながる地域の機運を高めていく必要があることから、大変貴重な御意見として、今後、調査、研究を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔企画振興部長（中上 良二君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 市山議員。

○議員（14番 市山 繁君） 壱岐市の婚活事業の中止の理由と婚活事業の直近3年間の実績についての説明では、私も同じで、令和3年まで実施をしておりました事業も、令和2年からコロナ禍によるイベントの延期や参加者の限定など、大変苦慮しているときに、壱岐市商工会女性部より結婚相談会の実施の御相談があり、要望を頂いたことも理由であるとのことでした。双方とも連携を図りながら、事業の推進に頑張っていたかと思っております。

そこで、直近の婚活の実績を見ますと、ちょっと重複するわけですが、平成30年度の参加者の男性が19名、女性が19名、カップリングは9組、成婚はゼロと。令和元年度は男性が17名、女性が14名、カップリングは11組、成婚はゼロ。令和2年度は17名、14名、双方ともこれはゼロです。令和3年度は2回で21名、女性が22名、カップリングゼロ、成婚ゼロ。平成27年度から令和3年度までの実績は、カップリング数が51組で成婚数は2組で、カップリングができて成婚が少なく、事業の実績は、相手があるのでこれは仕方ないわけですが、これを見ても女性が少ないということが一番の原因であるというふうに思っております。

（ロ）の次の婚活事業を壱岐市商工会女性部が活動をされますが、壱岐市は以前から協議されたのかについては、先ほどの説明で御理解をいたしました。女性部のパワーで、相手の相談を受

け、県、市、商工会で連携を図りながら、目的達成に期待をいたしておるところでございます。

続けて、（ハ）老岐市商工会女性部の婚活事業内容と取組方法と今後の実績見込みについては、婚活の取組については分かりましたが、5月から2月までと毎月相談をされておるようであります。10か月で相談者が60人、そのうち男性21名、女性5名と、女性が非常に少ないのが気になります。これは、女性がおらないともうカップルはできないわけですから、女性の募集といえますか、そうした希望者を募ってなるべく頂いて、成婚につながるようにしていただきたいと思っております。

そして、相談者の年齢を見ましても、20代から70代までおられました。それは私もびっくりしましたけれども、20代では男性が3名、女性が3名、30代では男性9名、女性はゼロ、40代では男性が4名、女性はゼロ、50代では男性が3名、女性が1名となっていて、相談者も見合いも女性が少ないので、女性の相談者が多くなるような方法を検討してみたいと思っておりますが、（ニ）については、老岐市では婚活事業を中止しているが、支援策については、これは、いろいろ連携していくということでした。

（ホ）については、結婚相談所については、結婚相談所とは違った知った方の紹介ということが、気楽にこうしてできるということが言われております。カップルにつながるのが成婚につながるということでございます。

そういうことで、結婚相談員もそういう登録をするよりも、そうしたことで、うちの娘が帰ってきたいばってん、誰かよかとはおらんとか、いろいろそういう話題があるようでございます。それでやっぱり一応当たってみて、一番私が一般の結婚相談所よりも入りよい、じいちゃん、ばあちゃんたちが、じいちゃんは行きませんから知りません。おばあさんたちが行って、そうした話があつておるようでございますから、そうしたのを相談して利用したらと思っております。

それから、私がいろいろ調べまして、参考までに申し上げたいと思っておりますが、未婚率の上昇については、50歳までに一度も結婚したことがない割合が急速に増しております。厚生労働省が公表しておる結果の全国平均では、男性が28.25、女性が17.8、近年、特に女性の伸びが顕著で、少子化が進んでおるようでございますけれども、次に、結婚の願望がある人は65%、しない理由は、精神的・経済面を感じておると、それから、次に、急速に進む少子化には70%が危機感を持っておるということです。そして、実施してほしい政策は、教育無償化がトップでありました。結婚しない理由は、男性では、恋人・パートナーがいない、そして見つからないと思うが47.3%、これも最多の多いほうでございました。経済的に難しいが35%。

女性では、結婚しない理由は、一人のほうに精神的に負担が少ない、これが53%、子どもを産みたいと思わないが36.9%、女性として自由を失いたくないというのが35%、非常に時代が変わっております。少子化への危機感是非常に感じているが37.7%、将来子どもを持つ

障壁については、男女とも金銭的な負担がトップでありまして、実施してほしい少子化対策には、教育無償化が最も多い、教育費、国は高等教育、大学の一部負担を2.4兆円の予算計上をしております。県も子ども政策として12億9,200万円、壱岐市も子ども・子育てに重点的に取り組んでおります。

少子化は、その時点だけでなく、20年後の国の労働人口確保として、日本経済の発展に大きな影響を危惧しております。各国の家族の関係社会支出の対GDPを見ましても、ベスト6か国ではスウェーデンが3.4%、一番多いです。それから、フランスが2.7%、ドイツが2.5%、イギリスは2.4%、日本は1.7%、米国は0.6%となっており、日本もGDPを増加し、人口減少歯止め効果のある政策をしなければ、人口減少が加速するばかりと私は思っております。

そうしたことで、これはいかに結婚して子どもを産んでもらうかということが、やっぱり世界中大事なことであります。

ゆうべ韓国のこともありましたけれども、韓国の出生数が、今までは38万人ぐらいが24万人ぐらいになると。それが半分以下が男性ですから、労働人口も非常に減少するという報道がございましたけど、やはりこれは今の時代でなく、先ほどから言いますように、20年先、日本の経済に影響するということでございますので、今後とも私たちもいろいろ頑張って、婚活していただいて、成婚していただいて、子どもを産んでいただくように、これが一番原因と思っておりますので、今後ともひとつよろしく活動していただきたいと思っております。

次に、2項の民生委員、児童委員の活動費の増額についてですが、活動費増額の提言を私がするのはどうかと思いましたが、活動の状況を判断し、弱者のため、よりよい相談相手となり、活動できるように提言したものであります。

民生委員、児童委員さんは、民生委員法及び児童福祉法に基づき、厚生労働大臣から委嘱された地域福祉を担うボランティアであり、非常勤の地方公務員として位置されており、福祉法では無報酬であり、活動費として必要な一部は活動費として支弁されておりますけれども、見守りの増加と物価の高騰を考慮するとき、活動費を増加すべきと次のことをお尋ねをいたします。

①の民生委員、児童委員の活動について、毎年、高齢者や独居老人が増加し、2年後には戦後の団塊の世代と言われてあった方々が後期高齢者となられます。独居高齢者数は令和4年10月末現在で1,729人、高齢者率は38.7%になってまいります。社会福祉協議会と連携し、高齢者や独居老人の見守りや心配事、いろいろな相談の手續など、関係機関との連絡、訪問、相談相手など福祉維持の負担が増加し、今年度の改選でも、全国に定員割れとなっており、2地区を受け持つ市もあり、無報酬による活動には限界を感じるとの意見も全国に挙がっておると新聞にも報道されておりました。

壱岐市では、欠員もなく現在活動費として年間10万円を支弁されておりますが、仕事増や物

価の高騰から見て、活動費を増額され、弱者のよい相談相手としての報酬ができますことを提案するものです。市長の御英断をお願いいたしたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） 西原市民部長。

〔市民部長（西原 辰也君） 登壇〕

○市民部長（西原 辰也君） 14番、市山議員の御質問にお答えいたします。

議員が申されましたように、民生委員、児童委員は、民生委員法及び児童福祉法に基づき厚生労働大臣から委嘱された地域福祉を担うボランティアで、非常勤の地方公務員として位置づけられております。

地域福祉を担うボランティアということで無報酬となりますが、電話代や交通費などの活動に必要な費用の一部は、活動費として支弁をされております。

今年度、壱岐市民生委員児童委員協議会連合会に対しましては、県からの市町民生委員児童委員協議会等運営費補助金が直接交付をされており、また、それとは別に、壱岐市より716万3,000円の補助金を交付しております。その中より、個人活動費、研修費用など地区民児協運営費に支出をされております。

議員御承知のとおり、壱岐市民児協では、活動費1人10万円と定例会等に出席された折の交通費として、1回500円が個人へ支給をされております。この活動費につきましては、県内離島4市町の平均金額は8万3,900円であり、ほかの離島地区と比較をしましても、決して低いものではありませんが、各町の民生委員児童委員協議会の中でも協議をしていただきたいと思っております。

また、見守り等の増加につきましても、民生委員、児童委員の方々だけの負担にならないよう、まちづくり協議会や自治公民館など、地域や見守り協力事業等、民間の協力を得ながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔市民部長（西原 辰也君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 市山議員。

○議員（14番 市山 繁君） この質問は、今回委嘱された委員様からの要望ではありません。近年の社会経済状況の見地から私の思いを提言しておりますが、委員さんはボランティアの精神に非常に強い方ばかりでございまして、ですが、金銭の問題ばかりでなくて、見守り活動に対し、訪問回数が増えるほど時間と費用も増加となってまいります。快く活動ができる弱者に安心感を与えるための活動費の増額をしたいと私は提言したものでありますが、10万円と言われますけれども、月にすると8,000円ぐらいです。

それで、その手当も、費用弁償ですか、500円ぐらいと言われますけれども、他所よりも安

くはないということですが、安い高いじゃなく、活動を快くして、やっぱりそこに30分ぐらいおりたいと思っても、やっぱりお年寄りはいいいきに来ていただいた、1時間ぐらい話してくださいとかなって、時間が2軒回るところが1軒しか回られんやったり、そういうこともありますので、やはり私は、こういう時節でございますので、月に1万円ぐらいはやっぱり支払うてあげないかとやなかろうかと思っておりますから、提言をした次第でございます。ひとつよろしくお願いいたしますが、市長、どうでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 白川市長。

○市長（白川 博一君） 市山議員の御質問でございますけれども、先ほど、市民部長が申しましたように、なかなか制度そのものについて、いろいろ制約もあるようでございますし、ただ、民生委員さんについては、ボランティア的な要素が非常に強うございます。そういった中で、議員の御意見も参考にしながら検討してまいりたいと思います。

○議長（豊坂 敏文君） 市山議員。

○議員（14番 市山 繁君） それはなかなか今、良識のある人は手当が少ないとか、そうした活動がしにくいとか言われる人は一人もおらないと思いますけれども、やっぱりこうした時代に、私も手当を見て、10万円ぐらいではこれはひどいなということを感じましたので、提言をしたわけでございますけれども、今後よく検討をして、市長の御英断をひとつよろしゅうお願いいたしたいと思います。

次に、3項の芦辺町イオン前面道路の横断歩道の設置についての再要望についてでございますが、平成29年4月11日に要望していました沓岐警察署地域交通課から県本部への回答についての再度の要望についてですが、この件につきましては、芦辺町イオン横の芝生広場での老人会グラウンドゴルフの方々から要望を受け、総務部長に相談し、依頼を行っていました。

警察署地域交通課では、早速交通調査を行い、県本部に上申されましたが、本部の調査の結果、横断歩道の設置は見送りされたことについて、次の再要望をしたいと思って、次のことについて質問いたします。

芦辺町イオン前の前面道路の横断歩道設置の再要望についてですが、この要望については、平成29年4月11日、総務課長に依頼し、警察地域交通課に要望し、地域交通課は早速道路の調査を実施され、平成29年8月31日、交通課より横断歩道設置の方向で本部に上申すると、今後、本部で最終審査となるとの連絡があり期待していましたが、平成30年5月末、県警本部が現地確認を行った結果、今回の横断歩道の設置は見送りとなったと報告があり、困惑をいたしておりますが、その回答は次のとおりでございました。

芦辺町イオンの前面道路の横断歩道の設置が見送りとなった回答は、①交通量が多くない、市内では多いほうかもしれないが、県内で見ると多くない。②トイレの利用者が少ないなど指摘を

受け、今回は横断歩道の設置は見送られた。

私は交通課の交通量の調査は暦どおりの平日だけの調査か、スポーツがあつていないときの調査か、スポーツ競技は平日はあつておりません。交通量が少ないのは、イオンのお客が土曜、日曜が多いです。トイレの利用が少ないのは、普段は通行人が公衆トイレに行くのは、よほどのときじゃないと利用しません。サッカーやグラウンドゴルフ大会は土曜、祝日が主に開催されております。トイレの利用は、大会の開催前は人間の精神的作用が誘い合つてトイレに行く人が多く、休憩時や試合終了後など特にトイレ利用が多く、イオンの駐車場から出てくる車や買物の車も多く、車の安全確認で老人、子どもは待ちきれない様子です。そのような状況を見られていないのでないかと思っております。

トイレなど、交通課との調査と現状は相違があると思われまふ。要望された利用者たちに要望の回答を報告しますと、万が一、事故があつたらどうするのかと、事故防止と言っているのに納得がいけない様子であり、ほかに方法はないのかと、市は分からないのかと興奮して話された、これを見て私は、次の要望はみんなで渡れば怖くないのとおり、各クラブで団体要望として横断歩道の必要性、再要望するほかはないと私思つておりますが、これについて市のほうでも助言を願つていただきたいと思ひますが、市長の御見解をひとつよろしくお願ひします。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

〔総務部長（久間 博喜君） 登壇〕

○総務部長（久間 博喜君） 市山議員の御質問にお答えをいたします。

芦辺町イオンの前面道路の横断歩道設置につきましては、ただいま市山議員から詳しくお話がありましたように、平成29年度に壱岐警察署に要望し、結果としては、県警本部の調査において、交通量が県内他地区の交通量と比較すると少ないということで、設置が見送られたところでございます。

今回、改めて市山議員からの御助言を頂きまして、先月、2月20日付で島内スポーツ団体からの要望書を受理し、市といたしましては、当該道路においては、大型商業施設「イオン壱岐店」、壱岐市地域福祉活動拠点施設「壱岐市芦辺町クオリティライフセンターつばさ」及び島外からの人流の拠点港である「芦辺港フェリーターミナル」に通じる道路であり、時期によっては交通量が多く、交通事故の発生のおそれがあるため、横断歩道の設置を希望するとの市の意見を付して、2月24日に壱岐警察署長へ進達をしているところでございます。

本日現在まで、まだ回答はあつておりませんが、今後、再度の交通量調査が実施されるものと考えております。市といたしましては、歩行者の安全を確保する必要があること、状況説明を各方向そして各場面において具体的に示しながら、横断歩道の設置に向けて継続的に働きかけをしてまいります。

以上でございます。

〔総務部長（久間 博喜君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 市山議員。

○議員（14番 市山 繁君） ありがとうございます。今、報告されましたように、平日と祝日は違うと思っているんです。やはり交通課は平日はそこで調査したとかどうかというふうに私疑っておりますけれども、これが日曜祭日になると、ジェットフォイルが着いたり、フェリーが着いたりすると交通量が増えます。

それから、イオンの駐車場にいっぱい車がありますが、それが時間帯では、こっちの出入口と20メートルぐらいしかなかわけですが、そっからどんどん車が出てくる、こっちから入ります、そしたら、小学生の人が、私は近いからあそこにトイレに行って、2月も3回ぐらいありましたが、もうこうやっちゃるとですね、それで、後ろからバンドを引っ張って、危ないぞっちこう言いよる人もおりました。そうしたことで、横断歩道があれば、車も止まっていたかく、停車していただくし、横断歩道の方も堂々と安心して渡られるということでございますので、市がそうした力を入れていただければ幸いですから、ひとつ今後ともよろしく願いをいたしたいと思えます。

それでは、婚活事業についても、ひとつ商工会女性部と連携して、県とも連携して、一人でも多く婚活ができますように、ひとつよろしゅうお願いをいたします。

それでは、私はこれで質問を終わります。ありがとうございます。

〔市山 繁議員 一般質問席 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 以上をもって、市山繁議員の一般質問を終わります。

○議長（豊坂 敏文君） ここで暫時休憩をします。再開を11時とします。

午前10時46分休憩

午前11時00分再開

○議長（豊坂 敏文君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1番、森議員の登壇をお願いします。

〔森 俊介議員 一般質問席 登壇〕

○議員（1番 森 俊介君） それでは、1番、森俊介が通告に従いまして、一般質問を行わせていただきます。よろしく願いいたします。

まず、1つ目の質問としまして、壱岐市の公式LINEについてお伺いさせていただきます。

壱岐市の公式LINEをより多くの方に届ける、かつ、より便利なものにしていく方法を模索するための質問となっております。

まずお伺いたします。現在の壱岐市の公式LINEの登録者の人数、そのうちの島内の人数、その年齢比について教えてください。お願いいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 公式LINEのこの分については、一応質問だけは一括で。

○議員（1番 森 俊介君） 一括で聞いたほうがよければ、一括でじゃあお願いいたします。

順番的には後のほうが分かりやすいかなと思っています。

○議長（豊坂 敏文君） 質問の要旨のときにそれからして。

○議員（1番 森 俊介君） 分かりました。

じゃあ併せて、公式LINEの中にあるメニューの中で、メニューごとでこれまで使われた回数についても教えてください。お願いいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。中上企画振興部長。

〔企画振興部長（中上 良二君） 登壇〕

○企画振興部長（中上 良二君） 1番、森議員の壱岐市公式LINEについての御質問に答弁をさせていただきます。

壱岐市公式LINEにつきましては、令和3年12月から本格運用を開始をし、新型コロナ関連情報や市政情報、イベント情報をお届けするとともに、市民皆様方からの通報、御意見、御提案などを受けることができる電子窓口として利用していただいております。

また、これまで火災情報メールとの連携や移住定住向けメニューを新たに追加するなど、充実した情報の提供による利用の拡大にも努めております。

御質問の現在の全体の登録人数でございますが、3月9日現在、友達登録が2,393人ございました。ただいま確認をいたしましたら、今日、ただいま2,414人となっております。

島内の人数でございますが、受信設定を登録された1,961人のうち1,864人、約95%が島内の登録となっております。

年齢比でございますが、受信設定を登録されている方の1,961人のうち、内訳につきましては、20歳未満が36人で2%、20代が164人で8%、30代が316人で16%、40代が545人で28%、50代が448人で23%、60代が301人で15%、70代が127人で7%、80代が24人で1%となっており、40歳代、50歳代を中心に登録を頂いております。

次の御質問の公式LINEの中にあるメニューの中で、メニューごとの利用回数でございますが、これまでは情報を取得できておりませんので、今月1日から情報を取得できるように設定をいたしました。今後改めて情報提供をさせていただきたいと考えております。

なお、これまで市民レポートとして35件の情報提供があり、危険箇所など担当課において対応をいたしております。また、LINEの機能要望が29件で、可能な範囲で機能改善をいたしております。

これまで、壱岐市公式LINEを16か月ほど運営をしておりますが、より効果的な情報発信やLINEを窓口とした行政手続の導入などを実証していくため、今月からサポート会社を変更し、リニューアルをいたしております。これに併せまして、市民皆様をはじめ多くの皆様に御登録を頂きたく、壱岐市公式LINEの市民皆様への周知についてでございますが、広報紙に定期的に掲載をし、また広報紙の今月3月号にも記載をするとともに、自治公民館の回覧文書でも本内容について周知を行ったところでございます。

また、壱岐市ホームページをはじめ壱岐市ケーブルテレビにおいても紹介をし、併せて、壱岐市ケーブルテレビの公式ユーチューブにおいても配信をするなど、周知と登録の推進に努めているところでございます。

今後も利用者目線で内容を充実させていくとともに、将来、スマートフォンで自治体のデジタル総合窓口が可能となるよう、デジタル化にも取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔企画振興部長（中上 良二君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） 御回答どうもありがとうございます。この後に質問させていただこうと思っていた内容についても、かなり触れていただきまして、とても助かりました。

それでは、今の御回答を踏まえて、追加で質問させていただきたいと思います。

まず最初が、現在の登録人数であったり、年齢比に関して、当初の目標があったかと思うんですけども、その目標と比べて現在の数字の推移というものについて、どうお考えかということをお聞かせ頂いてもよろしいでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 森議員の御質問にお答えをいたしますが、目標数値等については、ちょっと設定をいたしておりませんが、より多くの皆様にとというようなところで、これまで周知等を行っております。今回、そういった特に登録者数を増やすということが非常に重要なポイントでございますので、ただいま申しあげました周知など、適宜行っているところでございます。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。僕が今の登録者人数をお伺いした肌感覚

だと、人口の10%弱の方が登録してくださっているといったことで、かなり悪くはない数字なんじゃないのかなということをお伺いして思いました。

その中で、市民レポートが35件、あと機能要望が、ごめんなさい、聞き取り切れなかったんですけど、15件とおっしゃいましたか。これまでに機能要望。（「29件」と呼ぶ者あり）ごめんなさい、29ですね。

29件の機能要望があったとのことですが、先日、担当課にお話を聞かせていただいたときに、公式LINEを導入する大きな目的の一つとして、市民と双方向のコミュニケーションを取ることでとお話を頂きました。まさに市民レポートであったりだとか、機能要望だとかというところ、あとはパブリックコメントだとかいうところに関しましては、市民との双方向のコミュニケーションの部分かなと思いますが、これについて、当初、もっとたくさん来るんじゃないかと想定していたであったりだとか、この部分を特に公式LINEの使い方として伸ばしていきたいんだとか、そういったお考えがあるかどうかということについてお聞かせいただきたいです。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 森議員の追加の質問でございますが、どれだけそういった市民レポートなど、市民の皆様からの御要望等々があるかという想定まではしておりませんでしたけれども、今回、これを導入した、当然大きな内容としては、そういったいろいろな御意見も頂くツールを市としても設けておく必要があるというようなことから、今回、この公式LINEを導入したところでございまして、これが多いのか少ないのかというのはちょっとなかなか難しいところでございますけれども、先ほどから申し上げておりますように、できるだけそういったことについても、こういったLINEを活用して、いろいろな御意見等、提案等を頂くことに今後も努めていきたいと思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。もし、ここでお話できる内容で、具体的に機能要望29件の中で、こんな要望があったよというものがあったら教えていただくことは可能でしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） LINEの機能要望で、主なものとして改善した内容について、少し御説明をさせていただきたいと思っております。

要望がありました防災情報の配信につきましては、令和4年9月に防災メールと連携をさせまして、避難に関する情報とか気象警報などの配信も開始をいたしております。また、12月には火災メールとの連携も開始をいたしました。これも機能の要望に基づいて改善をした内容でございます。ほかにも、自治公民館の回覧板をLINEで見られるようにしてほしいだとか、また、

告知放送の内容を配信してほしいなどの要望をお受けをいたしております。

今後、それを全て実施できるということはなかなか難しいところもございますが、今後、関係部署と連携をいたしまして、対応を考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） どうもありがとうございます。既に要望があったことについて実装しているものがあるということで、大変すばらしいなというふうに感じました。

僕からも一つ要望というか、提案をさせていただければと思うんですけども、壱岐市のパブリックコメントについて、LINE上から入って行ってパブリックコメントをしようとする項目、メニューがあるんですけども、実際、その項目をクリックすると、結局市のホームページに飛んでしまうので、LINE上から回答できないというところがあり、そこで諦めてしまう方が結構多いんじゃないのかなというふうに感じましたので、ぜひそれもワンストップで公式LINEの中でできるようにすると、よりパブリックコメントに参加して下さる方が増えるんじゃないのかなというふうに思っております。

ちょっとお待ちください。

先ほど、中上部長のほうから先んじて御回答頂いた部分でもあるんですけども、やはり公式LINEの登録者数というのは、市としてはぜひ増やしていきたいところなのかなというふうに思っております。新しいツールを3月1日から導入したというお話だったんですけども、それは何か、例えばLステップのような分析ツールのようなものを導入したという認識でよろしいでしょうか。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 森議員の追加の御質問でございますが、サポート会社の変更につきましては、全体の見直しの部分もございましたし、ただいま申し上げましたいろいろな機能の追加等もございました。

また、これまでLINEの内容につきまして、担当部署としては情報管理課でございますが、そこでの一括した入力ということになっておりましたが、各課での入力を拡大をするために、入力のシステムも改善をしたということで、より多くの情報提供をできるような改善のために、今回、サポート会社も変更しリニューアルも行っているところでございます。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。先日、この件について、事前に担当課の方にお聞かせ頂いたときに、1人でこの公式LINEをしているんだというお話を聞かせていた

できましたので、やはりかなり大規模な運用になっていると思いますので、なかなか1人で全部やるということは難しいかなとそのとき感じました。それは、できるだけオペレーションの大変さというものを各課に分散したということは、とても素晴らしいことかなというふうに思います。

少し話は戻りまして、LINEの登録人数増加に向けてどういうことができるのかというところで、先ほどいろいろ今後やっていこうとしている施策についてお聞かせ頂いたんですけども、今の御答弁の中で、どういう分析ツールを入れるかというところまではお伺いできなかったんですが、例えば、LINEの分析ツールを入れるとどんなことができるようになるかといいますと、こういった経路で登録して下さった方が、例えば市の広報紙に載っているQRコード経由で登録してくれたのかであったりだとか、あとは市のホームページ経由で登録してくれたのかであったりだとか、あとは市が運用しているSNSだとか、例えばユーチューブだとか、どこからどの方が入ってきたかということ进行分析できるようなツールになっているんです。

それができるとどんないいことがあるかといいますと、例えば、先ほど20代、30代、40代、50代、各年代の方がこのぐらいいらっしゃるんだよということを教えていただいたんですけども、もしかしたら、今後、高齢者の方に、年齢の高い方にもっとやっぱり便利に情報を届けていきたいといったときに、そこを増やしていくために、どのようにしたらその層の人に届けることができるんだろうかということが、分析ツールが入っていることによって、より効果的な打ち手ということが分かるようになってきているので、そこに絞った打ち手ということを考えることができるようになります。

先ほど、新しくシステムについて新しく導入したという話をされていたんですけども、どういうシステムを使っているかというところまで僕は分からなかったんですが、そういうことができるツールもありますし、ツール、非常に安いものになっておりまして、そんなにお金かからないので、導入することによって、より登録者を増やすことであったり、それが市民の方の利便性につながっていくことだと思いますので、ぜひ、もし新しいシステム、そういった分析ツールの機能がないのであれば、そういったものを検討していただければなというふうに思います。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） 御提案を頂きましてありがとうございます。先ほどのパブリックコメントのことも含めまして、ただいまの内容について検討させていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） 御検討頂けるということで、どうもありがとうございます。

ちょっとお待ちください。

あと、先ほどの新たな機能についてというところなんですけれども、例えば、近くの自治体で

ある福岡市であったりだとか、あと、東京の渋谷区といったところが、全国的にも先進的なDXの取組をしているので有名な自治体かというふうには捉えています。

福岡市と渋谷区のLINEに僕も登録しているんですけども、やっぱり提供されている公式LINEの中のメニューにかなり違いがあるんです。もしかしたら担当課の方もその辺を見て勉強していただいている可能性はもちろん大いにあると思っっているんですけども、例えば、一例でいくと、福岡市だとか渋谷区とかだと、証明書、住民票だとか各種自治体が発行する証明書の手続だったりというものをもうLINE上で完結していて、電子発行のときもありますし、あとは郵送で届いてくるだとか、そういった機能がついていたりもするんです。個人的には物すごく便利なものかというふうに加え、僕も使ったことがあります。

例えば、ゼロからそういったものを、こういう機能があったら便利なんじゃないか、こういう機能を入れるために何かシステムを開発しようとする、もちろんすごくコストがかかる話かと思うんですけども、よそでもう先に取り組んでいるものに関しましては、いい意味でもまねをするというか、まねをして、これをやったらもっと便利になるんじゃないかということに取り組んでいくことができるかなというふうに思いますし、あと、先日、担当の方にお話を伺ったときには、結構福岡市とはコミュニケーションが取れるんだという話を聞かせていただいたので、もしコミュニケーションが取れるのであれば、ぜひそういったこれやってよかったよとか、これやったけどあんまり効果がなかったよとか、そういったところを勉強させていただきつつ、壱岐市のLINEをより便利で多くの方に届けるような取組をしていただければなというふうに思っております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 中上企画振興部長。

○企画振興部長（中上 良二君） ただいま福岡市の公式LINEなどを実際実施をされてあるところも参考にとりようなどところにつきまして、以前、ごみ分別でのLINEの実装なども御提案をあったところをございまして、これも福岡市の公式LINEなどの同じようなシステムを活用しまして、現在、データの作成がほぼ完了をしているということで、実装に向けた準備を進めているところもございますので、そういった他の自治体の事例なども参考に、今後より充実した内容に努めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。今回のこのやり取りの中で、もうかなりいろんなことに取り組んでいただいていることを、さっき先回りしてといいますか、感じました。

デジタル、DX、壱岐市も推進していますが、デジタルのいいところというのは、やったこと

に対する結果が数字で明確に見えて、それを基に改善を重ねていけるところかなというのは思っておりますので、ぜひ今後もそれを継続して、よりよい市民の便利なものを作っていただきたいと思います。

続きまして、次に、壱岐市のペーパーレスについて質問させていただきます。

現在、壱岐市で年間の印刷費用は幾らになっているのか、ペーパーレスを今推進されていると思いますが、ペーパーレスを推進する前と比べて、印刷費用の推移はどうなっているのか、どこまで紙を経費ベースで削減することを目標としているのかについて、お聞かせください。よろしくお願ひいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

〔総務部長（久間 博喜君） 登壇〕

○総務部長（久間 博喜君） 1番、森議員の御質問の年間の印刷費用は幾らになっているのかでございますが、令和3年度の印刷製本費の実績は、学校などの出先機関を除く4庁舎、事務所も含むところでございますけれども、実績が約2,240万円となっております。この中には、「広報いき」の印刷代503万円、税等の納税通知書や各種通知書の印刷代223万円、壱岐市の広告入り封筒や窓開き封筒の印刷代180万円などが含まれているところでございます。

庁内の事務に係る印刷製本費の目安といたしましては、4庁舎の複合機の使用実績、カウンター料を比較することが最も現実に近い数字になるかと思っておりますが、これにつきましては、令和3年度が546万9,000円、1月当たり約45万5,000円となっております。令和4年度は年度途中でございますので、1月当たりの数字だけをお答えをいたしますが、約52万3,000円となっており、前年比では増加をしております。

また、印刷製本費と併せまして、用紙の購入状況につきましても調べましたところ、令和3年度が1月当たり約23万8,000円、令和4年度が約24万6,000円と、こちらも増加をしております。

これらにつきましては、コロナ禍における各種会議やイベント等の自粛が徐々に緩やかになるとともに、行政側としての活動も活発になってきていることの影響ではないかと考えております。コロナ禍前の平成30年度、令和元年度の印刷製本費の実績が、いずれも約3,300万円と、令和3年度と比較して1,000万円以上大きかったことから、このような特殊な状況下であるために、ペーパーレス化による効果額として把握するにはちょっと難しいところでございました。

しかしながら、本市のペーパーレス化につきましては、議員皆様御承知のとおり、壱岐市議会の発議によりまして、平成27年からタブレット端末が導入され、議案配付をタブレット上で行うことでペーパーレス化が図られているところでございます。導入以前は、大量のページ数とな

る議案について、予備を含め100部ほど印刷をして紙ベースにて配付をしておりましたが、紙資源の節約のみならず製本作業等の省力化も図られ、大きなメリットを生み出しております。また、当時、タブレット端末導入は全国の中でも先進的な取組として評価され、これまで多くの行政視察の受入れ等が行われております。

こうした中、本市においてはDX推進を積極的に図っており、ペーパーレス化による業務改善、行政事務の効率化等を目指し、特に電子による内部決裁事務、以下電子決裁と申し上げますけども、その推進に取り組んでおります。

これまで紙ベースでの決裁がほとんどであった内部決裁事務について、DX推進の取組の一環として、電子決裁を本年度の壱岐市部局行動目標の具体的取組の一つに掲げ、まずは総務部総務課から試験的に取組を始め、その後、マニュアルの作成、課長等会での周知等により、全庁的に電子決裁事務を進めているところでございます。

総務課においては、部局行動目標に示した60%を既に超えたところでございまして、市全体においても令和3年度末に6.1%であった電子決裁比率が21.5%と徐々に浸透が図られているところであり、今後も引き続きペーパーレス化の取組を進めてまいります。

以上でございます。

〔総務部長（久間 博喜君） 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。とてもよく分かりました。

本来、この質問の後に各項目別の印刷費の内訳を出せるかということを知りたいと思っていましたんですけども、先に御回答頂きましたので、とても理解できました。

ちょっと細かい話になってしまうんですけども、今、御答弁頂いた内容と重複があったら申し訳ありません。広告入り封筒事務印刷費、あと納税通知書だったり「広報いき」の印刷費用というものが、前年でいうと2,240万円分の大体900万円ぐらいかなというふうに今理解したんですけども、今後、仮に今上げた費用というものを圧縮していくのはなかなか難しいと仮定したときに、残りの1,300万円分ぐらいのところは圧縮の余地が残されている部分かなというふうに思うんですけども、その中に多分、先ほどおっしゃった決裁事務であったりとかというのが含まれているのかなと思いました。

そのほかの、例えば1,300万円の中の内訳をもうちょっと細かく見ていったときに、この項目についてもっと減らせそうだなと考えているとか、ほかもうちょっと何かやっていきたいなど思っている箇所があったらお聞かせ頂けるとうれしいです。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

○総務部長（久間 博喜君） 森議員の再質問のほうにお答えをいたします。

今、議員のほうからお話を頂いた項目等の中でも、やはり「広報いき」とか、その他、市民への文書等の配付についてがウエートが大きゅうございます。この部門をどのように縮減するかというよりも、どういう形で市民の皆様に理解を頂けるかというところが、今一番大きな問題とっております。

特に広報紙、回覧文書の電子化につきましては、現在、市民向けの行政情報においては、御存じのとおり自治公民館を經由して各戸回覧、そして各戸配布を行っているところでございます。また、市民等へのお知らせの手段として、告知放送、ケーブルテレビ、その他、先ほどの公式LINE等のあらゆるツールを活用して、紙に頼らない手段を定着をさせていく時代となっているということは感じております。

そうした方向に持っていくことが、そして効率的ではございますけれども、やはり、市民の方の目線を見た場合、全ての方にやはり平等に情報を提供するべきだということの点で考えますと、やはり電子機器等を活用できない方もいらっしゃいます。そういう中では、現時点では重複することになっても紙ベースの情報提供は、ある一定、今の段階では必要じゃないかと思っております。ただ、今後におきましては、今申しました分野においては、大きく縮減されるところではないかと思っております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。おっしゃるとおり、紙じゃないと伝わらない方がいらっしゃるというのは、僕も本当にそのとおりかなと思っております。

「広報いき」については、先ほど中上部長から御答弁頂いたように、公式LINEのほうで機能改善のところでデジタルで配信でもいいんじゃないかなろうかという声が市民からも挙がっているというお話があったので、もしかしたらうまく折衷案というか、使うことによって若干費用を減らしていくことは可能なかなということ、今、お聞かせ頂いて思いました。

あとは、やっぱり市民向けのペーパーレスに関しては、残さないといけない部分というのがどうしてもあると思うんです。なんですか、市役所の内部の部分に関しては、市役所の中の決め事で何とかなるところかなというふうに思いますので、どちらかという、市民の方に負担を強くないような形で経費を削っていく、あと、SDGsの観点からもやれる余地というのは、市役所の内部のほうの方がより大きいかなというふうに思っております。

僕もそんなに詳しいわけじゃないんですけども、市役所にお伺いすると巨大なキャビネットが結構あって、そこにすごくたくさん資料があるような印象を受けておりますので、今ここで具体的に何の項目をもっと減らせるじゃないかというそれは全くないんですけども、もちろんもう検討していただいていることだとは思いますが、段階的に今後の資料を減らしていくという

こともそうですし、あとは、今、以前の紙の保管場所でかなり大きな物件を使っているということもあつたりすると思いますので、物理的な余地をスペースを圧縮するという意味も含めて、検討しなければなというふうに思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 久間総務部長。

○総務部長（久間 博喜君） 最終的に、完結文書につきましては、どう処分するかというところになりますけども、そこまでいく前にやっぱり減らすというところが、森議員言われておるとおりと思っておりますし、具体例を挙げて説明したほうが一番早いと思うんですけども、電子決裁以外の取組としては、本市では昨年4月より行政手続における押印の見直し、国にならって押印の見直しをしたわけですけども、国、県の条例などにより求められるもの、そして契約等の会計手続に関するものなど、一部の例外を除いて、800件を超える事業や手続等について、押印の廃止を実施をいたしました。

押印廃止の関係条例等の改正が整備できたことによりまして、既にメール等によって提出を認めているものもございます。そういう中で、今後、行政手続のオンライン化がさらに進んでいくものと思っております。

以上です。

○議長（豊坂 敏文君） 森議員。

○議員（1番 森 俊介君） ありがとうございます。とても素晴らしい取組だと思います。

今後もちろん継続して、そういった一連の取組をしていただけることかと思っておりますけども、なかなか見にくい部分だったりもするので、できれば何らかの形で、何かもう少しこういった進捗でプロジェクトが進んでいますよということを分かるようにしていただけたらうれしいです。特にこれについて答弁は要りませんので、僕の一般質問をこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

〔森 俊介議員 一般質問席 降壇〕

○議長（豊坂 敏文君） 以上をもって、森俊介議員の一般質問を終わります。いいですか。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（豊坂 敏文君） 本日の日程は終了いたしました。

3月13日は各常任委員会を、3月15日及び16日は予算特別委員会をそれぞれ開催いたします。

次の本会議は、3月22日水曜日午前10時から開きます。

○議員（10番 音嶋 正吾君） 発言を求めます。

○議長（豊坂 敏文君） はい。

○議員（10番 音嶋 正吾君） 本日、一般質問冒頭で、壱岐市長白川博一氏から、認定こども園の撤退の理由が北串会から送付された文書並びにそれを精査した内容で壱岐市長として壱岐市民にコミットメントがありました。ということは、壱岐市長が容認をして発言をされたものと考えております。

この中には、言論の自由、そういったものを抹殺するような言葉もございました。私はあくまで公序良俗の精神の中で、言論の自由は保障されるものであると考えております。壱岐市として、市長として、市民にコミットメントする適切な文書であったとお考えかどうか、その件をお尋ねをいたします。

○議長（豊坂 敏文君） 白川市長。

○市長（白川 博一君） 音嶋議員が、私が北串会の文書をまとめて申し上げました。それは、先日、正式な文書が来たらお知らせしますというお約束をしておりましたから、そのままお知らせしたわけでございますけれども、今、音嶋議員がおっしゃるように、言論の自由、そういうことでいろいろなことがあったかもしれません。しかし、北串会にも言論の自由があるということで御理解頂きたいと思っております。

○議長（豊坂 敏文君） 音嶋議員。

○議員（10番 音嶋 正吾君） それは理解をいたします。と申しますと、壱岐市長として市民にこのことをコミットメントされたわけですから、責任は重大であると考えております、私は。市長として、行政の長として、皆さん方に発言を受け入れて、そして市として発言の内容を精査し、その中で市民向けにコミットメントされたわけですから、私は慎重にやるべきではないかと考えております。

以上です。

○議員（4番 山口 欽秀君） 関連で。

○議長（豊坂 敏文君） 今回だけ許します。

○議員（4番 山口 欽秀君） 今、市長は言論の自由だからそれぞれ言い分があるということでしたが、市として、やっぱりどう受け止めるかというところで、はっきり御意見、市の立場を明らかにされていないんです。今回、向こう側はいろいろ理由を言って、工事の安全性が保たれないとか、それから安心した保育事業が運営できないというふうに相手は主張していますが、この点で、市長はこれを納得してそうだなという受入れなんですか。いや、そうじゃないという立場なのか、そのあたりははっきりお聞かせ願えますか。

○議長（豊坂 敏文君） 白川市長。

○市長（白川 博一君） 私は事実を申し上げたところでありまして、私の立場といたしましては、子どもの保育の環境が充実する、そういった期待をしていたけど、それがなくなったのは残念だ

ということで、私の気持ちは申し上げたところであります。

また、内容的には、私が申し上げた内容について、別途議会宛てに北串会から文書が届くということでございますので、それ以上の詳しい内容は申し上げませんでした。

○議長（豊坂 敏文君） 以上、本日はこの件についてはもう今報告がありましたが、ここで閉じたいと思いますが、いいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（豊坂 敏文君） それじゃあそのようにいたします。

本日はこれで散会いたします。皆さん、お疲れさまでした。

午前11時40分散会
